

『今がその時です』(ヨハネの福音書 4章 19-24節) 2021.1.10.

<はじめに> 今日から再び教会堂に集まることを控えて、配信や CD によって各自宅で礼拝をささげることになりました。急な対応でしたが受け留めてくださり感謝いたします。クリスチャンは礼拝を大切にしています。それはなぜ?と問われたとき、どう答えますか。

I 礼拝を見直す(20-22)

①変化の中での気付き

私たちは、教会で集まって捧げる礼拝から、どんな恵みと祝福をいただいて来たでしょう。今回教会に集まっていた礼拝を一時控えることにしました。しかし礼拝自体を止めたのではありません。何が違って、変わっていないことが何なのかを見出せる機会です。

②礼拝で大切なこと

この箇所ではサマリアの女は礼拝すべき場所の理解の差をイエスに問いました(20)。これがサマリア人とユダヤ人の対立の理由の一つでした。イエスは何と言われましたか(21)。そこでイエスが重要視されていることは、礼拝の場所ではなく、礼拝の対象です。

③知って礼拝しているか

サマリア人は主も異教の神々も礼拝していました(22)。対象があいまいだったのです。礼拝の対象である父に目を向けずに、その他のことを論じることは空しいことです。時・場所、形式、人の意欲や誠意で礼拝を評価する傾向は今もありませんか。

II まことの礼拝者(23-24)

①父を礼拝する

父と呼ぶからには、子であるはずですが。父と子の健全な関係には、どんなものが見られるでしょうか(いのちの繋がり、親しい交わり、信頼と尊敬、愛によって従う、供給と保護…)。神は霊ですから見ることはできません。私たちはどうすれば父をとらえられるでしょうか。

②御霊と真理によって

1:18 に神を解き明かされるひとり子の神がおられること、1:12 に御子を信じた者に神の子となる特権が与えられるとあります。この御子イエスは真理です(14:6)。イエスは生ける水(4:10)、御霊(7:37-39)を信じる者に与え、御霊によって神を父と呼びます(ロマ 8:15)。

③父が求めておられる

父なる神は、ご自分を礼拝する「者」を求めておられます。礼拝する「こと」とはなっていません。「アバ、父」と親しく屈託なく呼び求める神の子どもとされ、今もその関係に生きる者を礼拝者として招いておられます。

III 私たちの礼拝

①場所よりも関係

会堂と一緒にささげる礼拝に連なる幸いを私たちは知っています。しかし、それが叶わない状況も起こり得ますが、父を礼拝することを止める必然はありません。いつ、どこであっても、イエスによって神の子とされた者が、父よ、と呼び掛ける機会が礼拝となります。

②わたしを信じなさい

イエスを信じるとは、イエスが語られることに心を傾け、思い巡らし、わかったなら従うことです。牧師の説教を聞くことが礼拝ではありません。説教を含む礼拝のすべてのプログラムから、また日々読みことばからの語り掛けを受け取り、応答する関係こそ礼拝です。

③今がその時

教会に集まれないことは残念ですか。主は私たちにまたしてもこのような状況に導かれたのはなぜでしょう。むしろ主は私たちにまことの礼拝者として育てようとしてくださっている機会と捉えましょう。一人ひとりが父なる神とのより深い交わりに進まれますように。

<おわりに> 今は電話など種々のコミュニケーションツールもあります。それらも活用して、この期間にお互いが主から語られたことを分かち合い、励まし合えたならば、どんなに幸いでしょう。そして、再び相集つるとともに主を礼拝する機会が早く訪れますようにと待ち望みましょう(H.M.)